

岩熊力也展 苦よもぎの泉

Iwakuma Rikiya Solo Exhibition “the wormwood spring”
2016年1月5日(火) - 1月16日(土) コバヤシ画廊企画室

関係者各位

時下ますますご清祥の事と存じます。

いつも大変お世話になっておりました誠により難うございます。

この度、年明けの恒例の岩熊力也展「苦よもぎの泉」を開催致しますので、ここにお知らせします。会期は2016年1月5日(火) - 1月16日(土)です。

岩熊の絵画は、デビューの頃から木枠に張った透過性の高い布を支持体としていますが、近年はアクリル絵具で描いた画面を水で流しながら制作する独特の手法を用いています。

新作は、「苦よもぎの泉」というタイトルで、ある物語を軸にした映像と、苦よもぎ、古い家具、炭化したリングでリネン上に描かれた絵画などを、物語の残骸として構成したインスタレーションです。

どうぞ送らせていただきました資料をご査収の上、貴社刊行の出版物にご案内御掲載をご検討頂ければ幸いに存じます。

コバヤシ画廊企画室



苦よもぎの泉 2015 展示イメージ



charisma 2015

■展覧会一般情報■

展覧会名 岩熊力也展「苦よもぎの泉」

会 期 2016年1月5日(火)–1月16日(土)
日曜休廊・祝祭日開廊

開廊時間 A.M. 11:30–P.M. 7:00
但し最終日は5時まで

※初日午後5時30分よりレセプション

会 場 コバヤシ画廊企画室
東京都中央区銀座3-8-12 ヤマトビル B1
TEL03-3561-0515 FAX03-3561-7859
HP <http://www.gallerykobayashi.jp/>
E-Mail kbysg@gf6.so-net.ne.jp

■作家略歴■

岩熊力也 Rikiya IWAKUMA

1969 東京に生まれる
1990 日本大学芸術学部映画学科中退
1997 Bゼミスクーリングシステム修了
2004 ポーラ美術振興財団国際交流プログラム(メキシコ滞在)
2009 リトアニアに滞在。制作
1996年よりコバヤシ画廊他で個展多数
2011 「Gas station Hamburger Queen」第一生命南ギャラリー、東京
「EL RIO DE LA LLUVIA」 BIBLIOTECA HENESTROSA、メキシコ
2013 第一生命南ギャラリー、東京
2014 連続企画個展「パランプセスト」(北澤憲昭企画)

主なグループ展

1999 「INDEX」セゾンアートプログラム・ギャラリー、東京
2000 「第16回平行芸術展」エスパス OHARA、東京/
2000 「INDEX」セゾンアートプログラム・ギャラリー、東京/
「MESSAGE」コバヤシ画廊、東京 [以降毎年出品]
2002 「VOCA展2002」上野の森美術館、東京/
2007 「「森」としての絵画」岡崎市美術博物館、愛知/
2008 「VOCA展2008」上野の森美術館、東京<大原美術館賞>
2009 「RAIN MEETS THE SUN」M-Zilinskas Art Gallery、リトアニア
2011 「アーティストファイル」新国立美術館、東京
2012 「El vacío y el paisaje.」Galeria AP. ハラバ、メキシコ/
「La vida y la muerte, sus intermitencias.」Antiguo colegio
jesuita de patzcuaro. バツクアロ、メキシコ

パブリックコレクション 大原美術館

「苦よもぎの泉」

もし滅びの日を迎えるのならば山水画家らしく山のなかで静観していたいと、生まれ育った東京を離れ木曾へと移住したのが2015年初頭。しかしこの自然に囲まれた美しい風土にも悲哀の歴史はある。満州への移民送出数で長野県は全国一位である。二位の山形県の二倍の数字であるからぶっちぎりである。なぜ彼らはこの美しい郷土を捨てて大陸へと渡っていったのか。彼らの思い描いたユートピアとはいかなるものだったのか(農村の貧困が原因といわれるが、実際には経済が回復してから開始されているという)。

移民の問題に関しては数年前にメキシコで日系三世の家族と出会ったときから私のなかにくすぶり続けてはいました。思い返してみれば、日本人というのは常に海の向こうに理想郷の存在をみてきた民族でもある。神々は舟に乗ってやって来るのです。

ユートピアとは何でしょう。

戦後には北朝鮮を「地上の楽園」とキャンペーンした帰国事業もありました。

また、「アメリカの戦争に巻き込まれる」と安保改訂に反対し、世界同時革命を夢見た若者たちが仲間をなぶり殺しにし、武装闘争してまでも実現しなかったユートピアとはいかなるものであったのか。

修行し善行を積むものたちだけからなる平和国家建国を目指し、墮落した人間たちの大量殺戮を計ったオウム真理教のユートピアとは。

枚挙にいとまがない。

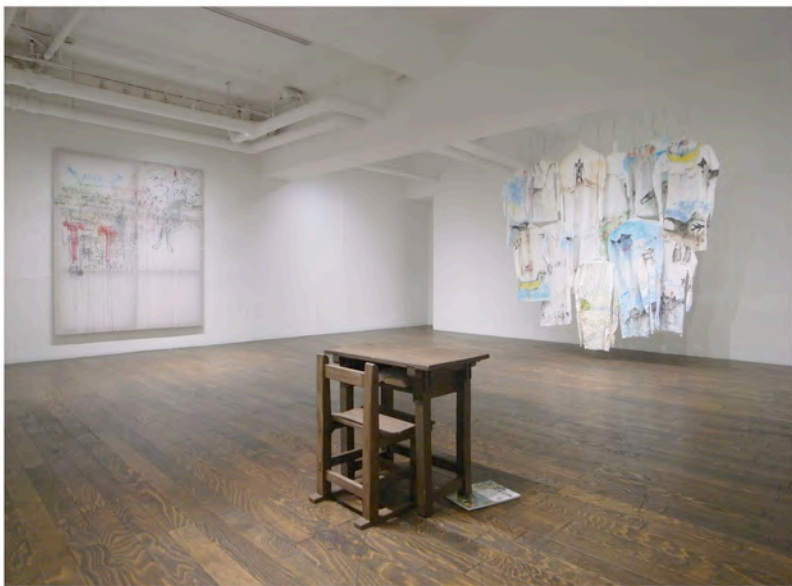
山水画もまた理想郷を求める画家たちの涙の結晶です。大陸の山水画家の経歴をみてビックリするのは殺害されたり獄死したりするものの多さで、権力闘争と民族間の皆殺し合戦に明け暮れてきた大陸の歴史の悲哀だ。それ故山水画家たちが筆に込めた理想郷への想いはどこまでも切実な絶望の表現なのです。

自称山水画家の私もまた私なりに理想郷に想いを巡らせたあげくに生み出したのが「苦よもぎの泉」です。ちょうど日本では道徳的な態度を表明し高みへと昇ろうとする人々が急増していた時期でもありました。しかし耐えがたきを耐え忍びがたきを忍んで70年間平和を貪ってきた民の描くユートピアなど所詮張りぼてで、どうにも偽善臭が立ち込めてしまうもので、おのずとディストピアへと転じてしまうもののようです。残念ながらそこにあるのは山水画になり損ねた無惨な残骸ばかりです。

テーマは"人類総懺悔"ですが、やはりそこからも灰かなルサンチマンの芳香がたちのぼってしまいますね。みじめです。

そんな歪な日本のわたしです。





上 2014年「Weight」コバヤシ画廊
中 同年「ocean」ギャラリーαM
上 2015年「charisma」コバヤシ画廊